

R5年度 南区自立支援協議会活動報告

1. 共通テーマにおける取り組み

共通テーマ「複合的な課題を抱える家族への支援～世代や属性を超えたシームレスな連携・支援を考える」を意識し、「事例を通じて連携を考える」という内容でライフステージに沿って取り組みを進めた。

5月10日〈学齢期〉	事例提供：泉北支援学校（機関紹介も実施） 事例タイトル「支援学校在籍している障害者手帳未取得の生徒とその世帯」
共有された課題：	支援学校のみでの関わり。長期の休みになると様子が分からない。母の考えにより支援の介入に影響がある現状等。
アイデア：	南区の地域情報（子ども食堂、フードバンク）放課後等児童デイの活用、地活（昼食やシャワー利用）ユースサポートセンターの活用。母の支援へのつなぎ等。
7月12日〈青年期〉	事例提供：南区障害者基幹相談支援センター 事例タイトル「グループホームから同棲希望の利用者に対する支援」
共有された課題：	性に関する課題。SNSによる出会いや情報による危険性。金銭管理や搾取の危険性。恋愛相談（付き合い方、同棲や結婚）支援者として介入の難しい内容（価値・倫理）
アイデア：	障害者雇用の場合、会社やエマリスでの見守り可能。地活でスマホの使い方プログラム。（過去に実施）支援学校で傷付けないメールについて授業実施。GH から自立に向け、ウィークリー・マンスリーマンションで体験的な利用。
11月8日 〈壮年期・高齢期〉	障害者関係機関と高齢者関係機関との交流会 進行：基幹型包括支援センター 母（高齢者）と長男（障害者）との二人暮らしを3つの事例（シチュエーション）を通じてグループにて意見交換。①母の認知症疑いを発見した時。②母が入院予定、残った息子の生活をどうするか。③ケアマネが訪問した時に障害のある息子を発見した時。
獲得内容	世帯支援として、高齢者関係機関と障害者関係機関が世帯の課題に直面・発見した時に連携できるように、顔の見える関係、相談先を確認した。

<取り組みから見えてきたこと>

- ・各ライフステージで適切な支援に繋がるような働きかけと、継続して支援が途切れないように、移行期や狭間、グレーな部分の支援が必要。移行期やグレーな部分に焦点を当てて、「事例を通じて連携を考える」取り組みを継続し進めていく。
- ・社会の変化（ネット環境、様々な課題）に対応する為、支援者の支援力・専門的知識向上の為、勉強会を開催していく。
- ・児童期には親の考えにより支援の介入に影響を与える為、子どもの自立に向けた親への働きかけについて、障害児相談支援ワーキングでも取り上げて頂きたい。

2. 南区独自の取り組み

- ・指定相談事業所連絡会との連動を意識し、「事例を通じて連携を考える」は合同で取り組みを進めていった。また、指定相談事業所連絡会で出た課題を1月の協議会内で共有する機会を持った。（経済、医療機関との連携、SNS、社会資源、二次障害、8050問題、介護保険移行期など）
- ・障害理解促進に向けた啓発活動を実施。（南区ふれあいまつりへの参加、民生委員児童委員向けに出前講座）
- ・みなみんなフレンズ（事業所情報誌）をデータで更新できるよう、仕組みづくりを行った。

<取り組みから見えてきたこと>

- ・指定相談事業所連絡会から共有された課題の中で、医療機関との連携が挙げられた。障害により自ら訴えない事で病変に気がつきにくい状況や、医療機関につながるまでに検査や治療に対し消極的な対応を受ける例が共有された。障害のある方の二次障害や高齢化への対応に向けた学習会や、市協議会へ実情報告ができるよう、検討を進めていきたい。
- ・継続し指定相談事業所連絡会と協議会との連動を図りながら地域課題抽出できるよう体制整備を進める。